

岡山市埋蔵文化財発掘調査速報展2015

と き 平成27年10月28日(水)～29日(木)
ところ 岡山市役所 1F 市民ホール

塚の鼻3号墳 岡山市北区建部町大田下

今回、箱式石棺が発見された塚の鼻3号墳は、北区建部町大田下に所在しています。丘陵上に位置する墓地の改築に伴い、上部の墓標を外したところ、その直下に石棺が存在していました。

石棺の大きさは、長辺1.6m、北側の小口で38cm、南側の小口で33cmを測り、主軸方向は南北方向です。使用された石材は花崗岩であり、石材の接触面には粘土を貼った箇所も観察されました。また、石棺内側には赤色顔料が塗布されています。

さらに棺の底には枕石と考えられる石材が、南北の小口の両側ともに置かれており、もとあった石棺を一度拡張したような痕跡がみとめられます。

副葬品に関しては、棺内出土品の大半が原位置を保っており、量も少量であり、後世の攪乱の影響が大きい。鉄剣片やミニチュア刀子、ガラス小玉が出土しています。

箱式石棺の時期は古墳時代中期ごろを考えるとできます。その被葬者像としては、古墳の立地などからみても、旭川沿いにおける水陸の交通を掌握した人物の存在が想定されます。

造山古墳 岡山市北区新庄下

造山古墳群全体の保護のために必要な記録を作成するため、造山古墳周辺の発掘調査を行っています。本年度は、造山古墳前方部西側の畑地について発掘調査を行いました。

今回発掘した場所は、周辺の地面より60～80cm程高くなっていることから、未発見の古墳あるいは、造山古墳の周濠の堤となる可能性が考えられました。調査の結果、耕作土の下から、地山（基盤となる自然の土）と考えられる土層を確認しました。古墳や堤の痕跡は確認できませんでした。遺物は、耕作土の中から埴輪や陶磁器の小片がわずかに出土しました。

このたびの発掘調査では、古墳や堤の痕跡は発見できませんでした。しかし、この高まり部分全体で、地山を確認できました。このことから、田畑を行うために、後世に造成された土地ではなく、もともとある地形ということがわかりました。地山を削って、周濠を掘ったり、その上に古墳を築いたりする例があることから、遺跡である可能性はまだ残されています。

幡多廃寺 岡山市中区赤田

岡山市中区赤田に位置する古代寺院で、出土している瓦などの年代から白鳳時代に建立されたことが明らかとなっています。寺域には岡山県下で最も大きな心礎が残る塔跡があり、史跡に指定されています。かつて範囲確認調査が行われましたが、寺院廃絶後の水田開発の影響が大きく、伽藍配置は明確でない点が多いです。

今回調査された地点は、市道を新たに建設する部分で、寺域の南半部分にあたり、建物等は想定されない場所でした。ところが、瓦溜りを検出し、軒瓦も多数出土したことから、付近に建物が存在していた可能性が推測され、幡多廃寺の伽藍配置を検討するための重要な資料となりました。また、寺院廃絶後に行われた地鎮祭の跡も検出され、すぐに水田開発がされたのではなく、一定期間は居住域として利用されていたこともわかりました。寺院跡の下からは、弥生時代中期末から古墳時代後期の集落も検出し、寺院建立以前には一定規模の集落が継続的に営まれたことが明らかとなりました。古代寺院建立の背景を考える上で重要な資料となりました。

勘定口窯跡 岡山市東区瀬戸町塩納

窯跡は、岡山市東区瀬戸町塩納の谷部に立地しています。道路の建設に伴い山林を伐開したところ確認されました。近隣には、これまで調査を行ってきた勘定口古墳群が広がっています。尾根の斜面に直交して築かれた窯は、長さ約10mを測る部分が残されていました。窯の傾斜角は30°を超えています。窯は著しく削平を受けており、焚口や燃焼部などは検出できませんでした。また、硬化・赤化した焼成部の床面近くのみが残されていることから、窯の壁面や天井などは失われてしまっていると考えられます。

今回出土した遺物は、遺構の埋まった土や下に流れてしまった土の中からみつかったものです。瓦がメインとなり、備前焼の古い時期のものも含まれます。

限られた内容から窯の時期を特定することは難しいですが、おそらく中世に入った頃のものとして推測されます。また、2km程離れた地点には万富東大寺瓦窯が存在しており、時期的な前後関係、操業者の異同等両者の関係性が注目されます。

金蔵山古墳 岡山市中区沢田・円山

金蔵山古墳は操山丘陵のほぼ中央、標高100mほどの山頂に位置する前方後円墳です。墳長165mといわれ、四世紀後半から五世紀初頭に造られた古墳と考えられています。造山古墳築造以前では中国、四国、九州地方で最大の古墳です。

発掘調査は墳丘の規模、形態、構造等を追求し、将来は史跡等の保護の措置を図っていく計画です。平成26年度は前方部西側斜面を中心にトレンチ1～3を調査しています。調査では「造り出し」の存在や、墳端の位置や構造が判明しました。

「造り出し」は後円部に直接接続しています。墳端部は墳丘斜面下端の外側に「犬走り」のような外周施設と埴輪列をもつ特殊な構造です。墳丘斜面葺石と円筒埴輪列の間には川原石を敷き詰め、埴輪列より外側は大ぶりの割石を列石状にならべています。また、列石の外側にも割石を帯状に敷き詰めているようです。

「造り出し」の上には特別な埴輪の区画をつくっています。埴輪の区画は墳丘側を円筒埴輪列、外側を柵形埴輪で囲んだ中に、家形埴輪と円形埴輪を設置しています。蓋形埴輪の破片が集中する部分もあり付近に立てられていたようです。柵形埴輪は埴輪の区画の中でも重要な部分を囲ったり区切ったりする埴輪といわれ、岡山県下では初めて確認されました。また、円形埴輪は重要な祭祀を行う場所とそこを囲う目隠し塀をかたどったものと言われます。

ほんの一部の調査のため、埴輪群全体の配置がわかったわけではありませんが、畿内の王墓に匹敵する格式高い埴輪群を持っており、しかもそれが並べられた状況で見つかった非常に稀有なものです。古墳の中での祭祀やその性格を解明する重要な手がかりといえます。

もっと知りたい！という方は・・・ ”埋蔵文化財発掘調査報告会” に是非お越し下さい。速報展で展示した遺跡・遺物のことを発掘調査の担当者が詳しく説明します

●と き 11月7日(土) 13:30～ ●ところ 岡山市埋蔵文化財センター (岡山市中区網浜834-1) TEL (086) 270-5066 *11月6日(金)までに左記に要予約のこと

また岡山市シティミュージアム(岡山市北区駅元町)にて、2016/1/30(土)～2/21(日)まで、出土遺物を展示します。(入館料が¥300かかります)